

ター、国際連合人道問題調整事務所（OCHA）、同地域開発センター（UNCRD）、現在建設中の県立災害医療センターなど、国際的な防災・人道支援の施設が集積しつつある地域である。

当センターは、震災資料の収集・保存・展示、調査研究と実戦的な人材育成、災害発生時の広域支援、交流ネットワークの形成といった多面的な機能をもった施設である。展示部門においては、地震発生の瞬間を音響と映像で再現する「1.17シアター」や復興への歩みをドキュメンタリー映像で伝える「大震災ホール」などの映像、一つ一つにさまざまな思いがこめられた16万点にも及ぶ被災者から提供された震災資料、語り部の生の声などを通じて、震災の体験や教訓を風化させることなく国の内外や次世代へと継承している。

さらに、2003（平成15）年春開館予定の2期施設には、前述の国際機関等の入居も予定されており、国際的な防災拠点となることが期待されるとともに、展示部門においては、震災において再認識された「いのちの尊さと共に生きることのすばらしさ」を考え、体験する場を提供すべく準備を進めている。

一方、HAT神戸では、震災からの文化復興のシンボルとして建設された県立美術館「芸術の館」においても、常設展示に加え「美術のカー時代を拓く7作家」、「ゴッホ展」などの企画展を順次開催するなど、活発な文化活動を開始している。

人と防災未来センターは、これらの施設とも連携しながら、大震災の被災地がインフラなどのハード面だけでなく、こころの復興も含めて真の復興をなしとげつつあることを、内外に情報発信していく拠点としても活動を展開していきたい。

センターの詳細情報は<http://www.dri.ne.jp>をご参照いただきたい。

（人と防災未来センター センター長 河田恵昭）

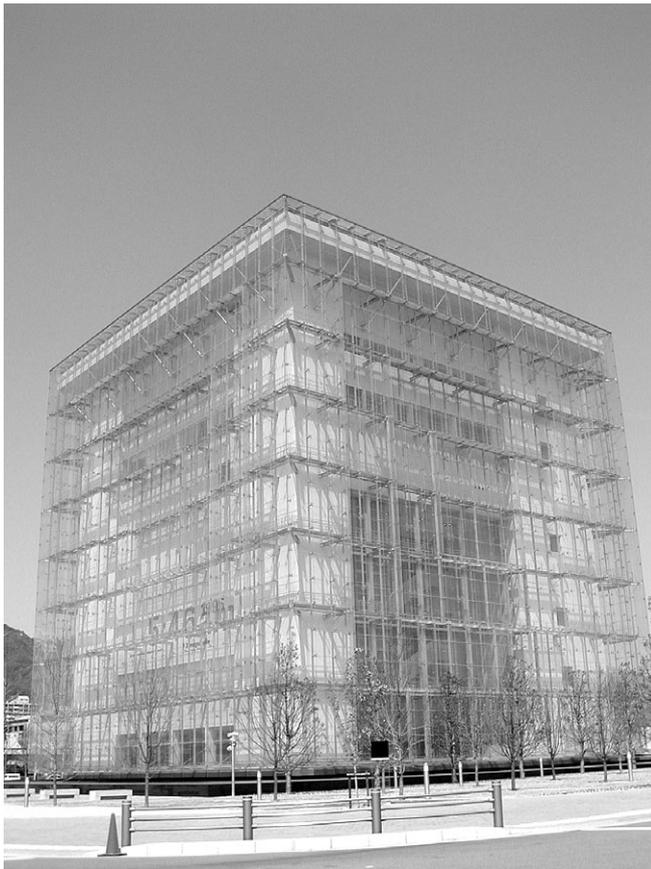
「第8回土木系学生によるコンクリートカーナー大会」開催される

今年で8回目となる「土木系学生によるコンクリート・カーナー大会」が、土木学会関東支部主催、国土交通省関東地方整備局、戸田市後援のもと、8月24日に戸田市道満グリーンパーク内にある彩湖を会場に開催された。大会前日は雨天に見舞われたが当日は雨が止み、午後から晴天に恵まれ、そのなかで各チームとも元気いっぱい自作のカーナーで競技を行った。

順位は、カーナーの速さを競うレースポイント（トーナメント方式）と事前に提出したプレゼンテーション資料（カーナー製作に関する創意工夫をアピールする）による評価ポイントとの総合点から決定した。レースは距離約300mで行い、予選、準決勝を勝ち上がった上位6チームにより決勝を行った。また、プレゼンテーション資料をパネルにして会場に展示し、参加チームおよび土木学会の幹事の投票から技術賞を選出した。

参加校は、今大会初出場校から全大会出場のベテラン校までさまざまだったが、全てのカーナーがレース途中で沈没することなく、ゴールまで完走を成し遂げた。

レース結果は前年優勝校の木更津高専が全ての得点項目を総ナメして総合優勝連覇を飾った。また、東京工業大学（三木研）と東京都立大学が共に準優勝となり、秋田工業高校が優秀賞と



大震災の教訓の継承と文化復興施設の活動

人と防災未来センター（1期施設）は、阪神・淡路大震災の教訓を次世代に継承するとともに、災害による被害の軽減に貢献するための施設として、HAT神戸（神戸東部新都心）にこの4月にオープンした。このHAT神戸は、震災復興の特別事業として整備され、国際協力事業団（JICA）や、アジア防災セン



写真-1 コンクリートカヌーを浮かべている様子



写真-2 優勝した木更津高専とカヌー

なった。技術賞は、高校の部が秋田工業高校、高専の部が木更津高専が選ばれた。

参加校は、以下のとおりであった。

<大学・高専の部>

足利工業大学、茨城大学、宇都宮大学、木更津高専、埼玉大学、東京工業大学（二羽研、三木研）、東京都立大学、東京理科大学、長岡技術科学大学、日本大学、前橋工科大学

<高校の部>

秋田県立秋田工業高校、秋田県立大曲工業高校、神奈川県立向の丘高校、東京都立小石川工業高校、栃木県立宇都宮工業高校、栃木県立真岡工業高校、山梨県立峡南高校

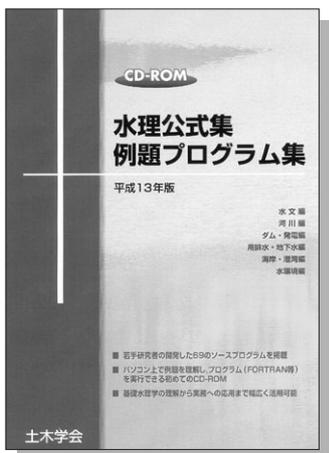
第8回土木系学生によるコンクリートカヌー大会結果

	優勝	準優勝		優秀賞
	木更津高専	東京工業大(三木研)	東京都立大	秋田工業高校
プレゼン点	40	30	20	30
レース点	60	40	50	30
総合点	100	70	70	60

技術賞：木更津高専、秋田工業高校
(不動建設 矢部浩史)

B O O K
PICK UP

水理公式集 例題プログラム集 (CD-ROM出版)



本書は、水理学に関する例題をコンピュータ上で理解しプログラムを実行できるCD-ROM刊行物です。このような形式による出版物は土木学会として初めてです。

さらに、水理学・水工学に携わる研究者、技術者、学生に対して、基礎水理学の理解から実務への応用まで幅広く活用できる内容となっており、水理公式集[平成11年版]と同様、「水文編」、「河川編」、「ダム・発電編」、「用排水・地下水編」、「海岸・港湾編」、「水環境編」の第6編から構成されております。CD-ROMには、若手研究者が開発した69の例題プログラムが掲載されております。

詳細は、下記ホームページの「目次およびプログラムの動作環境確認表」に記載しておりますので、ぜひご参照ください。

編集：水理委員会 水理公式集改訂小委員会

水理公式集例題プログラム集編集部(部長：中辻 啓二)

平成14年3月発行、B5判(ケース), CD-ROM + 小冊子

定価：8 400円(本体8 000円 + 税)

会員特価：7 560円 送料：450円

FAXまたはE-mailにて購入申込受付中

ホームページ「刊行物のご案内」
<http://www.jsce.or.jp/>

●お申込み・お問合せ先

(社)土木学会・出版事業課
TEL 03-3355-3445 / FAX 042-946-0969
E-mail : pub@jsce.or.jp

丸善(株)・出版事業部
TEL 03-3272-0521 / FAX 03-3272-0693